



ミニ 永国寺はらっぱフェス

11/8(日) 場所:雲の上の図書館

ヒューマンライブラリー (HL) は「生きている本」を「読者 (参加者)」へ貸し出す図書館です。

今回は、精神的な疾患や発達障害、引きこもり経験など、精神的な困難を抱えた経験を持つ人たちが「生きている本」となり、自らの経験を語ってくれます。

「生きている本」との少人数での対話を通して、色々な経験や人生にふれてみませんか？

《当日の流れ》

- 12:30 受付開始
- 13:00-13:30 「ヒューマンライブラリーってなんだろう？」
高知県立大学社会福祉学部 玉利麻紀、梶原町立図書館 片岡・牛島
- 13:30-14:00 ヒューマンライブラリー (HL) 受付 (本の予約)
- 14:15-14:45 HLセッション①
- 15:00-15:30 トークセッション「つながりってなんだろう？」
高知県立大学社会福祉学部 矢吹知之 教授、玉利麻紀 助教
- 15:45-16:15 HLセッション②
- 16:30 終了

企画：高知県立大学永国寺はらっぱフェスプロジェクト

共催：梶原町立図書館

お問い合わせ先：088-847-8815 (高知県立大学企画調整課)

0889-65-1900 (梶原町立図書館)



参加費無料

雲の上の図書館
ヒューマンライブラリーで

ご利用案内

- ・読書（対話）時間は一冊につき30分間です。
- ・受付で「生きている本」を予約してください。
- ・読書時間に指定の場所へお越しください。
（読書時間の終了5分前に司書が声をかけます。）
- ・読書後はアンケートへのご協力をお願いします。



※1回につき、2冊までの予約が可能です。

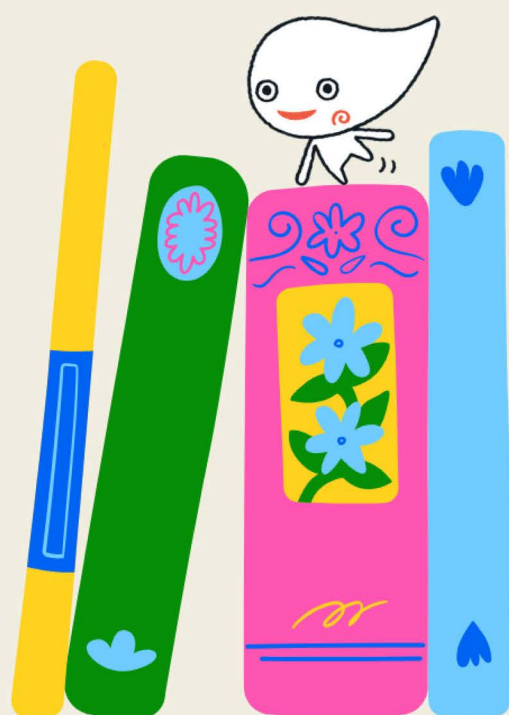
※今回は4冊の「生きている本」をご用意しております。1冊につき最大5名までの参加が可能です。

※ヒューマンライブラリーの蔵書は生きています。「生きている本」を大切に扱うために、事前に同意書へのサインをお願いします。

蔵書リスト

私の心の「絵の具」の話 著者 イオ

子どもの頃から自分を表現することがずっと苦手だった、それはずっと他人軸で生きてきたから。そんな私が自分を主体に話することができるのがハンドメイド（ハンドクラフト）でした。ひきこもり・うつ病、など色々抱えている本が語る、人生に色がつき始めるキッカケになった楽しみの話。



なんじゃこの人生？ 著者 tomo

幼少期からの母との暮らし。家や学校でサバイブしながら「一人で生きて、一人で死にたい」と考えてきた。知的障害や発達障害の診断を受けて、支援される未来を生きる？「なんじゃこの人生？」と頭に浮かび、生き方のシフトチェンジが始まった。

ぼくの人生はエンターテインメント 著者 しもだつきゆび

年中、誰かしら何かしらトラブルを持ち込んでくる家族の中で、自らもひきこもりを経験しながら、家族を支えるために必死で奔走した青春時代。今となれば、不幸と笑いは紙一重！人生につきゆびしちゃった著者が語る、家族と自分。

まあくんの感じるこの世の仕組み ～ボクの見ている『こっちの世界』と『そっちの世界』～ 著者 まあくん

悩み多き子ども時代を経て、20代半ばで精神病に侵される。しかし、そこから這い上がっていく中で、子どもの時から感じていた、この世（宇宙）の絶対的仕組みを体感する！脳のバグを修正していく作業は、脳を最適化する結果に！それは、時間を超越した、精神を安定に導く指標だった？？